



「東京六戸会」たより

おめでとう

木村庄之助さん！

124

広報ろくのへで既にご紹介がありました。この度、六中（昭和三十九年度卒）の畠山三郎氏が大相撲第三十七代立行司、木村庄之助に推挙されました。東京六戸会の会員でもある木村庄之助さんに心からの敬意とお祝いを申し上げます。大相撲見物も兼ねて初場所中日の十九日に両国国技館に三十名の皆さんが集まりました。

相撲観戦後、近くの料理屋さんで懇親会を致しました。ちゃんこを戴きながら宴も進む程に庄之助さんの口も滑らかに、失敗談や楽しかった事、思い出話を多々披露されました。庄之助さんには、平成十九年一月の東京六戸会に忙しい合間も縫ってご出席戴いております。また、平成二十年一月場所にて、六戸会の皆さんで相撲観戦をして、行司支度部屋等案内していただいた楽しい思い出があります。行司には、今は木村家と式守家の二家があり木村庄之助、式守伊之助はそれぞれの最高位とあります。

華やかな烏帽子直垂は、足利時代の武士の姿を言われ軍配の房を菊とし（胸飾り）は総紫となります。

六中の校章を染め抜いた装束は同級生でもある吉田町長や同期生の皆さんが贈られたものと聞きました。国技館でお逢いした時もまた、テレビで最初にあの姿を拝見した時も大変感動致しました。

毅然とした所作を以つて土俵上の勝負を裁く姿に勇気を戴きながら今後のご活躍に心から声援を送りたいと思います。ありがとうございます。ございました。

吉田 竹雄
（六戸中 三十年度卒）

相撲自慢 「吉田竹雄作」

アアアエー
相撲自慢を甚句に読めばヨ
ア、相撲王国青森は
名代横綱鏡里
土俵の鬼なら若乃花
手取り（技の）名人栃ノ海
続く二代目若乃花
隆の里には旭富士
記憶に残りし名力士

木村庄之助さんを囲んでのスナップ



猛牛怪力鏡岩
貴乃花やら貴ノ浪
三所八艘猫だまし
小兵ながらも舞の海
あまた自慢のある中に
紫房の軍配を
かざして土俵に凜と立つ
平常心なり行司道
Rの校章染め抜いて
烏帽子直垂鮮やかに
腰に覚悟の短刀を
古式ゆかしき出で立ちで
あがるどよめき背に受けて
気合見極め立ち合わせ
勝負を裁くは土俵上
上げる軍配勝ち名乗り
語りで「第三十七代 立行司」
木村庄之助はヨアホホイ
アア（青森の）六戸の自慢ヨア